

(資料A) 核物理委員会次期委員候補者リスト (候補者：あいうえお順, 推薦者：順不同, 全て敬称略)

被推薦者	推薦者	推薦理由
青井 考 (大阪大学核物理研究センター) AOI Nori <aoi@rcnp.osaka-u.ac.jp>	中村 隆司 (東京工業大学理工学研究所) E-mail : <a href="mailto:nakamura@phys.titech.ac.jp">nakamura@phys.titech.ac.jp</a>	青井考氏は、不安定核物理分野において若手のホープであり、かつRCNP・サイクロトロン施設を使った核物理研究の中心的推進者でもあります。現在、核物理将来レポートの不安定核物理WGにおいて代表を務めており、分野が多様な拡がりをもつため非常に難しいとりまとめの作業を粘り強く行い、将来が俯瞰できる非常に良いレポートに仕上げつつあります。氏は国際的にも広く認知された研究者でインビームγ線分光で数多くの業績があります。核物理委員会に若手の新風を取り入れるという意味でも是非推薦したく思います。
岩崎 雅彦 (理研仁科研究センター) masa@riken.jp	野海 博之 (阪大核物理研究センター) E-mail : <a href="mailto:noumi@rcnp.osaka-u.ac.jp">noumi@rcnp.osaka-u.ac.jp</a>  大西 宏明 (理化学研究所) E-mail : <a href="mailto:h-ohnishi@riken.jp">h-ohnishi@riken.jp</a>	岩崎氏は中間子先端研を率いて核物理のみならず素粒子物理から物性物理まで非常に幅広い科学研究を手掛けられる。その統率力のみならず、氏の広い見識と非常に柔軟な発想を、引き続き、核物理分野の発展に発揮して頂きたいので、核物理委員の候補者として強く推薦する。  岩崎氏はJ-PARCにおける原子核ハドロン物理を強力に推進してきた研究者です。また、J-PARC ハドロンホールの更なる発展のために必要不可欠なJ-PARCハドロン 拡張計画を含む 将来計画でもなくてはならない存在です。そのため、核物理委員としてふさわしいと考えます。
上坂 友洋 (理研仁科センター) uesaka@riken.jp	本林 透 (理研仁科センター) E-mail : <a href="mailto:motobaya@riken.jp">motobaya@riken.jp</a>	上坂氏は、中間エネルギー原子核物理領域において、特にRIBF施設とRCNPにおいて実験を推進しており、実験分野を代表する優れた科学者である。核物理委員会にとって上坂氏のような新鮮な人材が活躍することがその発展に繋がると考え、推薦します。
小沢 恭一郎 (高エネルギー加速器研究機構) <a href="mailto:ozawa@post.kek.jp">ozawa@post.kek.jp</a>	齊藤 直人 (高エネルギー加速器研究機構) E-mail : <a href="mailto:naohito.saito@kek.jp">naohito.saito@kek.jp</a>  石川 貴嗣 (東北大学電子光物理学研究センター) E-mail : <a href="mailto:ishikawa@ins.tohoku.ac.jp">ishikawa@ins.tohoku.ac.jp</a>	これまで、KEK-PS実験、PHENIX実験、そしてJ-PARC実験で数々の検出器の開発、設計、さらに物理解析の経験をお持ちです。実験にかける情熱と、若手に対する指導力の高さから、今後のハドロン物理を率いるリーダーとして期待される人物です。推薦させていただきます。  大型加速器施設 J-PARC における原子核・ハドロン物理実験は日本における原子核物理を支える二つの大きな柱の一つであることは疑いない。小沢恭一郎氏はこの J-PARC におけるハドロン物理実験の将来を担う若手研究者であり、J-PARCにおけるハドロン物理の推進・発展さらには日本の核物理全体を支えるのに欠かせない人材と考える。
齋藤 直人 KEK素粒子原子核研究所 E-mail : <a href="mailto:naohito.saito@kek.jp">naohito.saito@kek.jp</a>	中野 貴志 阪大・核物理研究センター E-mail : <a href="mailto:nakano@rcnp.osaka-u.ac.jp">nakano@rcnp.osaka-u.ac.jp</a>	J-PARCでのミュオンを使った基礎物理研究を中核となって推進されている。高エネルギーコミュニティとのパイプも太く、次世代の研究者が分野の壁を感じずに興味の赴くまま自由な発想で研究を進めることができる環境を整えるために活躍して頂きたい。
櫻井 博儀 (東京大学理学部) sakurai@ribf.riken.jp	大津 秀暁 理研仁科センター E-mail : <a href="mailto:otsu@ribf.riken.jp">otsu@ribf.riken.jp</a>  石原 正泰 (理研仁科センター) E-mail : <a href="mailto:ishihara@ribf.riken.jp">ishihara@ribf.riken.jp</a>  上坂 友洋(理研仁科センター) <a href="mailto:uesaka@riken.jp">uesaka@riken.jp</a>	櫻井博儀氏は、高エネルギー重イオンから不安定核ビームによる物理まで広い学識と経験を持つ。現在は、東大と理研の研究グループを率いて不安定核研究を行っている。学術研究の行政的側面にも明るく、広い立場から原子核研究の推進について議論をすることができ、核物理委員として適任である。  原子核コミュニティに属する多数の研究者が関与しているRIBFプロジェクトの推進機関である仁科センターに於いて、同氏は、同計画推進の中核を担っている。原子核コミュニティの発展に尽くすことを旨とする核物理委員会が十全な機能を果たすためには、同氏の参加は決定的に重要な筈。  櫻井氏はRIビームファクトリーにおける不安定核物理学研究を主導している方で、原子核コミュニティのあり方・進むべき道を議論する上で不可欠なメンバーである。
酒見 泰寛 (東北大 CYRIC) <a href="mailto:sakemi@cyric.tohoku.ac.jp">sakemi@cyric.tohoku.ac.jp</a>	永江 知文 (京大理) E-mail : <a href="mailto:nagae@scphys.kyoto-u.ac.jp">nagae@scphys.kyoto-u.ac.jp</a>  旭 耕一郎 (東工大 (院) 理工) 篠塚 勉 (東北大 CYRIC) 柴田 利明 (東工大 (院) 理工) E-mail : <a href="mailto:asahi@phys.titech.ac.jp">asahi@phys.titech.ac.jp</a> <a href="mailto:shino@cyric.tohoku.ac.jp">shino@cyric.tohoku.ac.jp</a> <a href="mailto:shibata@nucl.phys.titech.ac.jp">shibata@nucl.phys.titech.ac.jp</a>  齊藤 直人 (高エネルギー加速器研究機構) E-mail : <a href="mailto:naohito.saito@kek.jp">naohito.saito@kek.jp</a>	酒見さんには、現在、物理学会のプログラム委員を務めていただいております。実験核物理領域の次期副代表、次次期の代表になる (予定の) 方です。核物理委員として、学会との緊密な連携をお願いするにふさわしい人だと考え、推薦するものです。  酒見泰寛氏はこれまで28GeV電子ビームを用いた核子のクォーク・グルーオン構造、核媒質中のハドロン相互作用の研究のほか、最近では不安定核常磁性原子を利用した電子 EDM の探索 を通じて基本相互作用・基本対称性の研究に力を注いでいる。この間、文科省学術調査官を務め、原子核・素粒子・宇宙分野の科研費などを担当した。また大学教育においてはイオントラップについての優れた学生実験教育で受賞もしている。幅広い核物理の視点からのみならず核を用いた基礎物理研究、大学における教育の観点からも核物理委員としてこの分野の前途に貢献して頂きたい。  東工大、核物理研究センター、そして現在の所属での多彩な研究経験をお持ちです。具体的には、核子を基本自由度とする研究から、核子構造研究、そして電気双極子モーメントなどの基礎物理です。これらの、ご自身で進められた幅広い研究経験をもとに、高い見識のご意見が伺える方ですので、推薦させていただきます。
志垣 賢太 (広島大学大学院理学研究科) <a href="mailto:shigaki@hiroshima-u.ac.jp">shigaki@hiroshima-u.ac.jp</a>	齊藤 直人 (高エネルギー加速器研究機構) E-mail : <a href="mailto:naohito.saito@kek.jp">naohito.saito@kek.jp</a>	AGS実験から、PHENIX実験、そしてALICE実験と、高エネルギー重イオン物理実験における活躍に加え、J-PARC加速器に関わった経験の持ち主です。国内外の状況を俯瞰した立場からの今後の日本の核物理のあり方について議論出来る人物として、推薦させていただきます。

(資料A) 核物理委員会次期委員候補者リスト (候補者：あいうえお順, 推薦者：順不同, 全て敬称略)

<p>清水 肇 東北大電子光物理学研究センター SHIMIZU Hajime &lt;hshimizu@lns.tohoku.ac.jp&gt;</p>	<p>中野 貴志 阪大・核物理研究センター E-mail : <a href="mailto:nakano@rcnp.osaka-u.ac.jp">nakano@rcnp.osaka-u.ac.jp</a></p> <p>石川 貴嗣 (東北大学電子光物理学研究センター) E-mail : <a href="mailto:ishikawa@lns.tohoku.ac.jp">ishikawa@lns.tohoku.ac.jp</a></p>	<p>センター長として、旧核理研を東北大学理学研究科から東北大学電子光物理学研究センターとして独立させ、その翌年には同センターに全国共同利用・共同研究拠点としての機能を加えることに成功された。本来ならばex-officioとして核物理委員会に参加していただくべきと考えるが、規定の変更が間に合わなかったため推薦する。</p> <p>清水肇氏は東北大学電子光物理学研究センター ELPH および大型放射光施設 SPring-8/LEPS での GeV 領域の光子ビームによるクォーク核物理研究推進の中心的な役割を果たしている。また ELPH を全国共同利用・共同研究拠点に導き、共同利用体制の整備を行い、また震災で壊滅的な被害を受けた ELPH 電子加速器の復旧作業でのリーダーシップを示して、核物理委員会のメンバーとしてふさわしい。</p>
<p>下浦 享 (東大 CNS) E-mail : <a href="mailto:shimoura@cns.s.u-tokyo.ac.jp">shimoura@cns.s.u-tokyo.ac.jp</a></p>	<p>本林 透 (理研仁科センター) E-mail : <a href="mailto:motobaya@riken.jp">motobaya@riken.jp</a></p> <p>石原 正泰 (理研仁科センター) E-mail : <a href="mailto:ishihara@ribf.riken.jp">ishihara@ribf.riken.jp</a></p> <p>上坂 友洋(理研仁科センター) <a href="mailto:uesaka@riken.jp">uesaka@riken.jp</a></p>	<p>下浦享氏は、RIBF施設を中心に実験を行っている。実験装置開発から理論解析まで幅広い領域で大きな実績を持つ優れた研究者です。また、物理学会理事として学会に貢献するなど、全国的視野にたつて考えることができる、という点も核物理委員に相応しいと考え、推薦します。</p> <p>原子核分野で日本で3番目に巨大な研究機関であるCNSはコミュニティの発展に関しても然るべき役割を果たすことが期待される。そのためには、同機関から最低一人の核物理委員が選出されるのが順当と思われる。</p> <p>下浦氏は東大CNSの重イオン研究を牽引している方であり、またこれまで物理学会理事の要職で辣腕を奮ってこられた。特に、東大CNS-理研間で共同研究プロジェクトを立ち上げてこられた経験と実績を鑑みると、今後益々重要となる大型研究所と大学の関係を議論する上で不可欠なメンバーである。</p>
<p>下田 正 (阪大 (院) 理) <a href="mailto:shimoda@phys.sci.osaka-u.ac.jp">shimoda@phys.sci.osaka-u.ac.jp</a></p>	<p>旭 耕一郎 (東工大 (院) 理工) 篠塚 勉 (東北大 CYRIC) <a href="mailto:asahi@phys.titech.ac.jp">asahi@phys.titech.ac.jp</a> <a href="mailto:shino@cyric.tohoku.ac.jp">shino@cyric.tohoku.ac.jp</a></p>	<p>下田正氏はこれまで重イオンビームを用いた核構造物理において成果をあげてきており、特に最近ではレーザー光ポンピングによるスピン偏極を巧みに利用した独自の遅延<math>\beta</math>-<math>\gamma</math>分光法によって中性子過剰核の励起状態を明らかにする研究を進めている。その傍ら、日本物理学会若手奨励賞及び原子核談話会新人賞の選考委員長を務めて若手の顕彰を通じた核物理分野への貢献を行っている。核物委員会においては幅広い研究視野の他、学部教育も含めたこの分野の若手育成と低エネルギー核構造物理の視点を持った委員としても貢献が期待される。</p>
<p>田中 万博 (KEK素粒子原子核研究所) <a href="mailto:kazuhiro.tanaka@kek.jp">kazuhiro.tanaka@kek.jp</a></p>	<p>澤田 真也 (KEK素粒子原子核研究所) E-mail : <a href="mailto:shinya.sawada@kek.jp">shinya.sawada@kek.jp</a> 家入 正治 (KEK素粒子原子核研究所) E-mail : <a href="mailto:masaharu.jeiri@kek.jp">masaharu.jeiri@kek.jp</a> 里 嘉典 (KEK素粒子原子核研究所) E-mail : <a href="mailto:yoshinori.sato@kek.jp">yoshinori.sato@kek.jp</a></p> <p>永江 知文 (京大理) E-mail : <a href="mailto:nagae@scphys.kyoto-u.ac.jp">nagae@scphys.kyoto-u.ac.jp</a></p> <p>野海 博之 (阪大核物理研究センター) E-mail : <a href="mailto:noumi@rcnp.osaka-u.ac.jp">noumi@rcnp.osaka-u.ac.jp</a></p>	<p>田中万博氏はJ-PARCハドロン実験施設の実質的なリーダーとして、J-PARCプロジェクトの初期よりリーダーシップを発揮され、設計、予算計画の策定、建設、運営に至るまでを主導されました。一方、長年のビームライングループリーダーとしての経験に加え、RCNPでの生成核の偏極現象の研究、KEK-PSでのハイパー核やマルチフラグメンテーションの研究など、核物理の幅広い分野での経験が豊富です。ハドロン実験施設で本格的物理実験が開始され、J-PARCやRIBFにおける新たなページが開かれようとしているこの時期に、田中氏の豊富な知見を核物理コミュニティの運営に生かしていただきたいと思えます。</p> <p>田中さんは、J-PARCハドロンホールの建設と運営に重要な役割を果たしてこられました。大学共同利用機関としての素粒子原子核研究所において原子核ハドロン物理の推進に責任をもつという立場から、核物理委員に加わることが不可欠だと思えます。</p> <p>田中氏はJ-PARCにおけるハドロン実験施設の建設チームを率いて加速器からのビーム取り出しから実験エリアに至るまで同ファシリティの建設・運転・保守の責任を持ち、ユーザーからの高い信頼を集めておられる。氏の持つ加速器と物理の広い見識はJ-PARC全体の建設・運営に大きな力となっているが、これらを、引き続き、核物理分野の発展に発揮して頂きたいので、核物理委員の候補者として強く推薦する。</p>
<p>田村 裕和 東北大 (院) 理 Hirokazu TAMURA &lt;tamura@lambda.phys.tohoku.ac.jp&gt;</p>	<p>中野 貴志 阪大・核物理研究センター E-mail : <a href="mailto:nakano@rcnp.osaka-u.ac.jp">nakano@rcnp.osaka-u.ac.jp</a></p> <p>田中 万博 (KEK素核研) E-mail : <a href="mailto:kazuhiro.tanaka@kek.jp">kazuhiro.tanaka@kek.jp</a></p> <p>野海 博之 (阪大核物理研究センター) E-mail : <a href="mailto:noumi@rcnp.osaka-u.ac.jp">noumi@rcnp.osaka-u.ac.jp</a></p> <p>高橋 俊行 (KEK素核研) E-mail : <a href="mailto:toshiyuki.takahashi@kek.jp">toshiyuki.takahashi@kek.jp</a></p>	<p>核物理委員長として、「理学・工学分野における科学・夢ロードマップ」作成、学術会議の大型計画立案、核物理の将来WG推進等で強いリーダーシップを発揮された。ANPhA委員や2014年のハワイ日米合同学会の委員を務められることになっており、核物理委員会に欠かせない。</p> <p>田村さんは研究者としてはすでに誰の眼にも明らかのように、我が国の核物理研究の第一人者です。さらに今期の核物理委員長として、頼み希なリーダーシップを発揮し核物理全体を牽引してきました。学術会議の大型計画プロジェクトへの対応、核物理将来計画の策定、など田村さんが今期に係わった仕事の多様さと大きさを考えるとその核物理分野への貢献の大きさに驚かされます。さらにそれが本拠地大学が震災の復興に全力を尽くさねばならない中で行われたと言うことに、田村さんのリーダーとしての力と責任感の大きさが感じられます。田村さんには次期の核物理委員会においてもさらに活躍していただきたいと思ひ、推薦する次第です。</p> <p>田村氏はストレngths核物理の分野を主導する世界的権威である。氏は核物理委員長として、分野の将来計画をコミュニティ全体で考え、議論し、次代を担う若手を中心にボトムアップの形でわかりやすくまとめる作業を主導された。これはすでに、歴代の核物理委員会の中でも、非常に高く評価される功績である。氏の持つ広く高い見識を、引き続き、核物理分野の発展に発揮して頂きたいので、核物理委員の候補者として強く推薦する。</p> <p>核物理委員長として、学術会議で大型施設計画・大規模研究計画 (マスタープラン) 作りにご尽力されてこられた。核物理分野には、J-PARCとRIBFという大型施設を抱え、その高度化、特にJ-PARCハドロン施設の拡充の実現は分野の今後の発展にとって重要課題である。田村氏はその見識、能力、人柄など、我々の分野を統率するのにふさわしく、これらの計画の実現に向けて更にご尽力頂きたい。</p>

(資料A) 核物理委員会次期委員候補者リスト (候補者：あいうえお順, 推薦者：順不同, 全て敬称略)

<p>永江 知文 (京大大理) E-mail : <a href="mailto:nagae@scphys.kyoto-u.ac.jp">nagae@scphys.kyoto-u.ac.jp</a></p>	<p>田中 万博 (KEK素核研) E-mail : <a href="mailto:kazuhiro.tanaka@kek.jp">kazuhiro.tanaka@kek.jp</a></p> <p>野海 博之 (阪大核物理研究センター) E-mail : <a href="mailto:noumi@rcnp.osaka-u.ac.jp">noumi@rcnp.osaka-u.ac.jp</a></p>	<p>永江さんは核研からKEKにおいてSKSを用いた一連の画期的な仕事を成し遂げた後、J-PARC建設部隊の中核として活躍し、さらに今は京都大学で大グループを率いて、研究を推進されています。単に物理学者としての能力のみならず、プロジェクトを推進する力、そして大きなリーダーシップを有することを、これまでの活躍の中で示してきました。核物理委員会においても永江さんの議論は常に論理が明快で、茫漠としてとらえどころの無かったものが、永江さんとの議論の中で、明確な姿を現してきた事が一再ならずあります。永江さんのこれらの非凡な才能は、核物理委員会においても無くてはかなわぬものです。次期も必ず委員として活躍していただきたいと思い、推薦する次第です。</p> <p>永江氏は我が国のみならず欧米のファシリティを舞台にストレンジネス核物理の分野で多くの功績をあげられ、この分野を主導する世界的権威である。氏は核物理副委員長として、核物理委員会を支えてこられた。とくに、氏の深い洞察と高い見識に裏付けされた発言は、核物理分野の進むべき方向について確かな信頼を与える。引き続き、核物理分野の発展にお力を発揮して頂きたいので、核物理委員の候補者として強く推薦する。</p>
<p>仲澤 和馬 (岐阜大学) <a href="mailto:nakazawa@gifu-u.ac.jp">nakazawa@gifu-u.ac.jp</a></p>	<p>澤田 真也 (KEK素粒子原子核研究所) E-mail : <a href="mailto:shinya.sawada@kek.jp">shinya.sawada@kek.jp</a> 家入 正治 (KEK素粒子原子核研究所) E-mail : <a href="mailto:masaharu.ieiri@kek.jp">masaharu.ieiri@kek.jp</a></p> <p>永江 知文 (京大大理) E-mail : <a href="mailto:nagae@scphys.kyoto-u.ac.jp">nagae@scphys.kyoto-u.ac.jp</a></p>	<p>仲澤和馬氏はJ-PARCハドロンホールユーザー会の会長を2007年の設立時から務めておられます。氏は原子核乾板のエキスパートであり、KEK-PSでの一連の実験で複数のダブルハイパー核を発見するなど、これまで大きな実績をあげておられます。S=-2のハイパー核の研究をその大きな柱の一つとして掲げるハドロン実験施設での主たる実験の代表者でもあります。核物理コミュニティの重要な部分を占めるハドロンホールユーザーの代表として、コミュニティの運営に携っていただきたいと思えます。</p> <p>仲澤さんは、J-PARCのハドロンホールユーザー会(HUA)の会長を長く務めてこられ、ハドロンホールにおける原子核や素粒子物理の関係者の取りまとめ役として活躍されてきています。J-PARCのユーザーからの広い声を反映させる上で核物理委員に推薦します。</p>
<p>中野 貴志 (阪大核物理研究センター) E-mail : <a href="mailto:nakano@rcnp.osaka-u.ac.jp">nakano@rcnp.osaka-u.ac.jp</a></p>	<p>野海 博之 (阪大核物理研究センター) E-mail : <a href="mailto:noumi@rcnp.osaka-u.ac.jp">noumi@rcnp.osaka-u.ac.jp</a></p>	<p>中野氏はRCNPの共同利用実験施設であるLEPS施設を建設・運営する責任者でハドロン核物理研究を主導する。LEPSは氏の統率力によりJLABやBelleのような世界の大規模グループに伍して競争と協力関係を築いている。氏の深い見識と行動力に裏付けされた発信力はすでに分野を越えた随所で発揮されている。これらを、引き続き、核物理分野の発展に発揮して頂きたいので、核物理委員の候補者として強く推薦する。</p>
<p>中村 哲 (東北大学院理学研究科) <a href="mailto:nue@lambda.phys.tohoku.ac.jp">nue@lambda.phys.tohoku.ac.jp</a></p>	<p>齊藤 直人 (高エネルギー加速器研究機構) E-mail : <a href="mailto:naohito.saito@kek.jp">naohito.saito@kek.jp</a></p>	<p>原子物理から、ハイパー核物理まで広い分野をカバーし、海外のプロジェクトを中心に、活躍されています。その幅広い経験から、J-PARC PACの委員としても、思慮深いアドバイスを頂いています。国内外の状況を俯瞰した立場からの今後の日本の核物理のあり方について議論出来る人物として、推薦させていただきます。</p>
<p>中村 隆司 (東工大) E-mail : <a href="mailto:nakamura@phys.titech.ac.jp">nakamura@phys.titech.ac.jp</a></p>	<p>下浦 享 (東大CNS) E-mail : <a href="mailto:shimoura@cns.s.u-tokyo.ac.jp">shimoura@cns.s.u-tokyo.ac.jp</a></p>	<p>現核物理委員会委員で、「日本の核物理の将来レポート」のとりまとめの実績があり、今後も核物理のための尽力が期待できる。</p>
<p>野呂 哲夫 (九大) <a href="mailto:noro@phys.kyushu-u.ac.jp">noro@phys.kyushu-u.ac.jp</a></p>	<p>櫻井 博儀 (東京大学理学部) <a href="mailto:sakurai@ribf.riken.jp">sakurai@ribf.riken.jp</a></p>	<p>RCNPのユーザーの一人として、また九大での加速施設の整備計画にも従事している。ユーザーとしての意見とともに施設に責任ももつお立場からの意見を期待できる。また九州地区の代表としても相応しい方である。</p>
<p>宮武 宇也 (KEK) <a href="mailto:hiroari.miyatake@kek.jp">hiroari.miyatake@kek.jp</a></p>	<p>櫻井 博儀 (東京大学理学部) <a href="mailto:sakurai@ribf.riken.jp">sakurai@ribf.riken.jp</a></p>	<p>KEK素粒子原子核研究所で低エネルギー原子核物理グループを率いており、高エネルギー主体の素核研にあってユニークな存在である。過去の原研との共同研究、現在の理研との連携研究などの実績があり、これらの実績から貴重な意見を伺えることが期待できる。</p>